

マダコ養殖の事業化に向けた飼育技術の高度化と普及

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 伊藤 篤

2 研究期間：令和3年度～令和5年度（3年間）

3 研究目的

マダコ養殖産業を創出するために、種苗から商品サイズまでの各生活史ステージの飼育技術の高度化と普及を図る。

4 研究内容及び実施体制

① 稚ダコの大量生産技術の開発

水槽内構造物や餌条件が共食いや成長差に与える影響を調べて、共食いと成長差を防ぐ中間育成技術を開発する。

（東京海洋大学、水産研究・教育機構、岡山県農林水産総合センター）

② 実用的なマダコ養殖技術の開発

飼育管理の効率化を可能にする個別飼育容器と新規飼料を開発するとともに、マダコのふ化・成熟制御技術の開発に取り組む。

（水産研究・教育機構、マリンテック株式会社、岡山県農林水産総合センター、東京海洋大学）

③ マダコ種苗生産・中間育成・養殖技術の普及と実証

稚ダコ生産技術の改良と普及を図るとともに、市場分析により養殖マダコの差別化要素を明らかにする。

（水産研究・教育機構、香川県水産試験場、大分県農林水産研究指導センター）

5 最終目標

中間育成期の生残率の向上、個別飼育作業の効率化と省力化を達成する。また、養殖用稚ダコの生産技術の普及を図るとともに、市場における養殖マダコの適正販売価格を明らかにする。

6 期待される効果・貢献

稚ダコを商品サイズのマダコに計画的かつ効率的に養殖する技術の開発により、新たにマダコ養殖産業が創出され、これまで天然資源に依存していた活マダコの安定供給が可能になる。

背景

マダコ漁獲量の低迷と輸入価格の高騰

➡ 養殖への強い要望

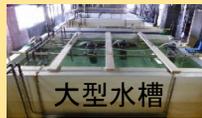
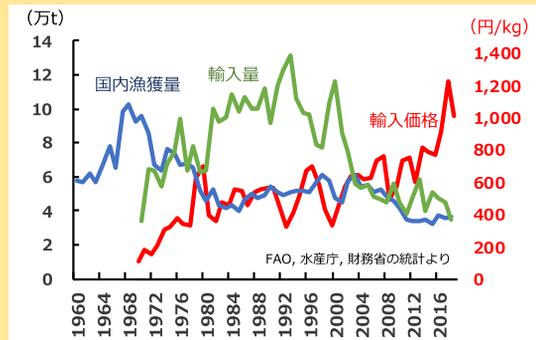
しかし、マダコ幼生の飼育が難しく、
養殖研究が進んでいなかった

マダコ幼生飼育技術の開発(H29)

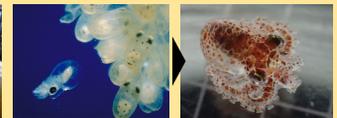
さらに、大型水槽での量産にも成功(R1)

養殖研究の次のステップへ

【課題】共食いによる減耗、養殖作業の効率化と省力化



大型水槽



研究目的

種苗から商品サイズまでの各飼育段階における
飼育技術の高度化と普及

研究内容

稚ダコ量産技術開発
共食いの抑制



東京海洋大学
水産研究・教育機構
岡山県

養殖技術開発
飼育容器と飼餌料



水産研究・教育機構
マリンテック株式会社
岡山県、東京海洋大学

技術の普及と実証
市場分析



水産研究・教育機構
香川県、大分県

最終目標

- ・ 中間育成期の生残率向上
- ・ 個別飼育作業の効率化と省力化
- ・ 養殖用稚ダコの生産技術の普及

期待される効果・貢献

マダコ養殖産業の創出

- ・ 国産マダコの安定供給
- ・ 天然資源に依存しない持続可能な養殖

